

水産・海洋研究発表会の発表概要

1. 近年のゴマサバ漁況の変化について ～資源減少と黒潮大蛇行がもたらす影響～

資源海洋科 研究員 富山皓介

ゴマサバは、主に伊豆諸島周辺で周年漁獲されており、鮮魚やさば節の原料となる重要な魚種です。しかし、近年は成熟前の0～1歳魚の加入が減ったことによる資源の減少や黒潮大蛇行等による漁場位置の変化等が確認されています。今回はこれらの現象について紹介します。

2. 浜名湖の恵みを守る ～アオノリ、マガキ養殖の取組～

浜名湖分場 主査 今井基文

浜名湖では近年、水温上昇等の環境変化によりクロダイ等の雑食性魚類の活動が活発になり、冬期に収穫を行うアオノリ（ヒトエグサ）とマガキの生産に影響が出ています。囲い網で魚類による捕食を軽減し、生産量を向上させた養殖業者の取組を紹介します。

3. キンメダイの精子を保存する ～キンメダイ種苗生産のために～

伊豆分場 主任 長谷川雅俊

伊豆地域の重要な漁獲対象であるキンメダイを増やすために種苗生産研究を進めています。種苗生産には人工授精が必要ですが、雌雄で成熟のタイミングがずれるという問題がありました。そこで、人工授精を効率的に行うために、キンメダイの精子を冷蔵保存する技術開発に取り組みました。

4. 環境DNAを使ったモニタリング ～魚病の流行予測を目指して～

富士養鱒場 上席研究員 中村永介

川や池、海といった環境中には、魚をはじめ細菌などの微生物も生息しています。これらの生物由来のDNAである「環境DNA」を検出することで、その水域の生物種や生息量を調べることができます。この技術を応用し、養殖場で発生する病原体をモニタリングすることで、病気の流行を予測する技術の開発を目指します。

5. 武闘派のカニ「ドウマン」の養殖 ～稚ガニから親ガニまでの育成に成功～

深層水科 主任研究員 清水一輝

トゲノコギリガザミは浜名湖特産の大型のカニで、地元では「ドウマン」の名で親しまれています。市場価値が高く養殖対象種として期待されていますが、気性が荒く飼育は困難とされてきました。今回、共食い等がおきないよう育成条件を工夫して、稚ガニを水槽内で成熟するまで育てる技術を確立しました。

6. 海藻の“ねばねば”成分 ～アカモクの健康機能性成分について～

開発加工科 上席研究員 二村和視

海藻アカモクはワカメのメカブのように粘りが強く、近年では人の健康の維持増進に役立つことが期待されるフコイダンやフコキサンチン等の成分が含まれていることで注目されています。今回は静岡県駿河区で獲れたアカモクに含まれる健康機能性成分の成熟に伴う含有量の変化について紹介します。